

情報通信研究開発推進プロジェクトチーム

モバイルネットワークの将来と研究開発

2003年2月10日

NEC 取締役常務

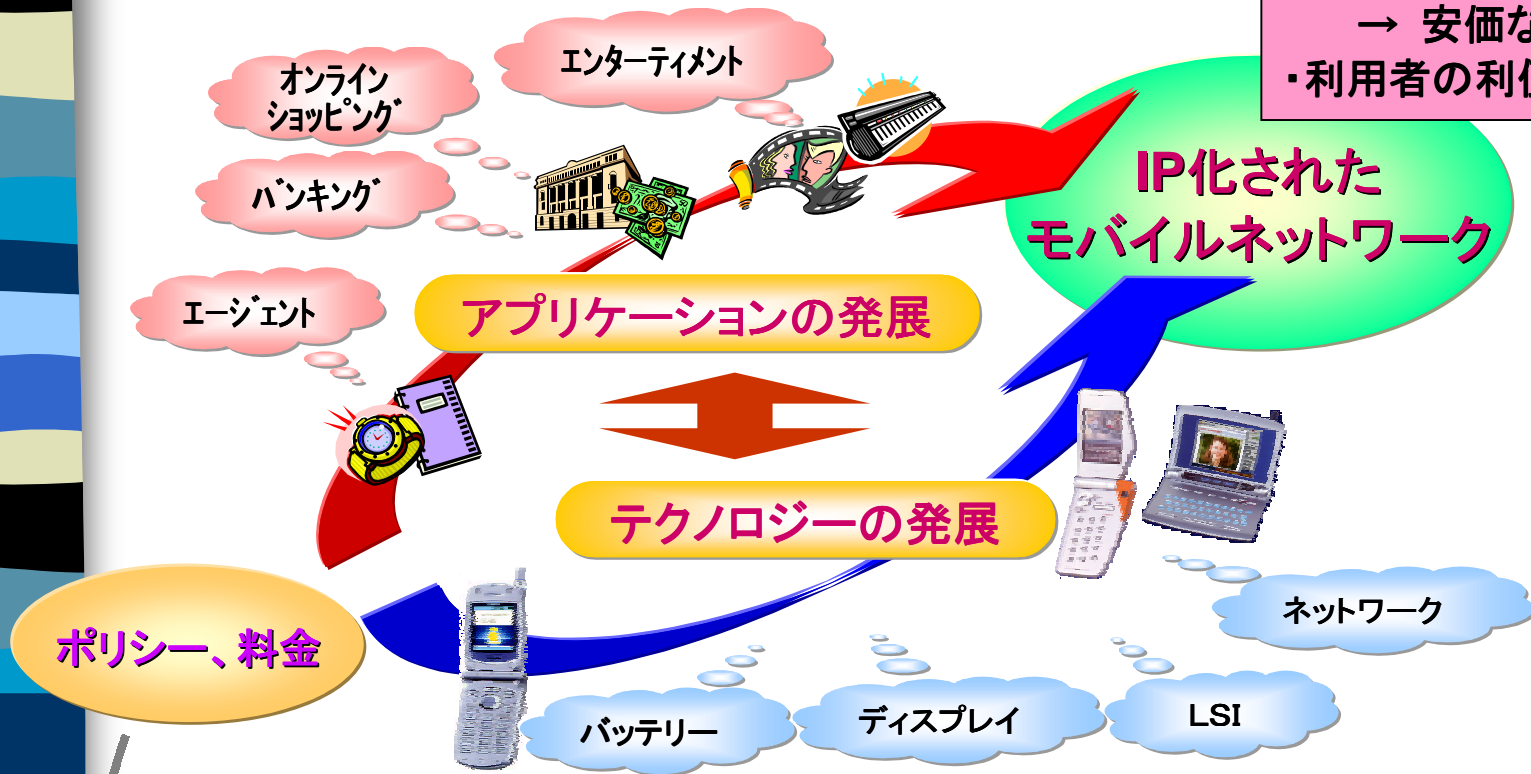
中村 勉

目次

- モバイルサービスへの期待と現実
- モバイルネットワークの将来
- 周波数の効率的な利用
- 通信・放送の融合
- 重点化すべき研究開発

モバイルサービスへの期待と現実

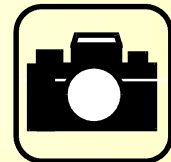
- ・サービスコスト低下
→ 安価な利用料金
- ・利用者の利便性向上



[例] デジタルカメラの1画面をメール (1280×960ピクセル: 約250KB)

・PDC料金: システム: 約280円 (回線交換)

・WCDMA料金システム: 約56円～560円



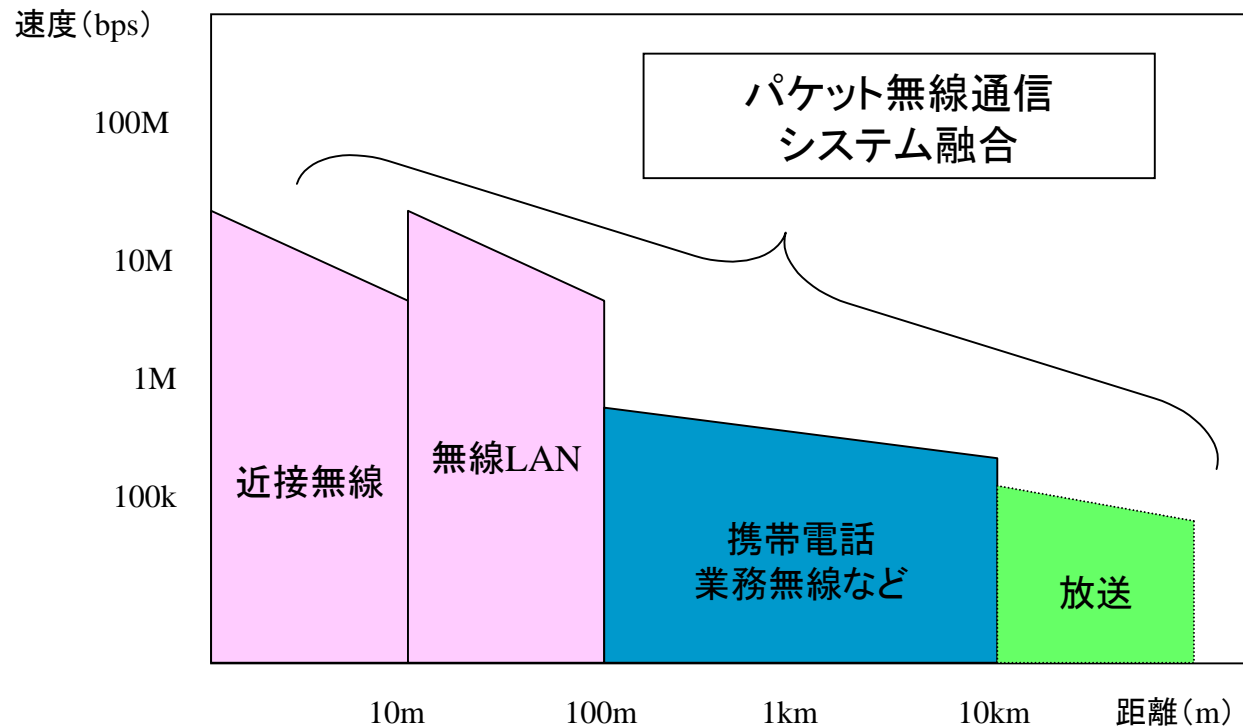


モバイルネットワークの将来

- モバイルネットワークの社会インフラ化
- 固定・モバイルのネットワークインフラ統合
- 通信・放送のネットワークインフラは統合・協調

周波数の効率的な利用

- 用途ごと縦割りの周波数資源利用を改め、すべての利用形態をパケット無線通信システムで実現する



通信・放送の融合

ネットワークインフラの一元化に向けて

- 地上波デジタル放送におけるモバイル放送の促進
 - － コンテンツ育成・放送ノウハウの蓄積
 - － 言語及びブラウザの標準統一（通信・放送事業者間）
 - － インターネットとのゲートウェイ機能付加
- モバイル網によるコンテンツ配信機構の開発
 - － ブロードキャスト、マルチキャスト方式
 - － 課金方式

重点化すべき研究開発

- 次世代無線インターネット技術
 - 広帯域適応パケット無線方式など
- モバイルサービスの高度化技術
 - オープンソフト基盤、コンテンツ流通・配信、QoS制御、セキュリティ、ネット家電との融合技術など
- システム高信頼技術
 - 無停止メンテナンス、負荷集中対応、サイバーテロ対策(端末のウィルス感染など)
- 官民連携したグローバル標準化活動推進